

P-B-12

グリスリンは多のう胞性卵巣症候群の排卵障害を改善し、 クロミッドの効果を増強する

Grislin induces ovulation in patients with PCOS :
a possible combination therapy after Failure with First-Line Clomiphene

富永 国比古¹⁾ 陳 瑞東²⁾ 佐藤 芳昭³⁾ 松岡 良⁴⁾ 中村 智子⁵⁾

1) ロマリンダクリニック 2) 陳瑞東クリニック 3) ソフィアレディスクリニック
4) 小平記念東京日立病院 5) 株式会社サン・メディカ

Insulin resistance is a prominent feature of polycystic ovary syndrome (PCOS), and insulin-sensitizing drugs are used to induce ovulation. Recently, it was reported that an extract from Maitake mushroom (*Grifola frondosa*) improves insulin resistance. The present study was to explore the effects of Maitake extract (Grislin) to induce ovulation in patients with PCOS in comparison with and in combination with clomiphene citrate (CC). The results showed that Grislin alone may induce ovulation in PCOS patients and may be useful as an adjunct therapy for patients who failed first-line CC treatment.

【目的】

多のう胞性卵巣症候群（PCOS）は、生殖年齢女性の排卵異常の 5-10%を占める疾患である。この治療にはクロミッドが一般的であるが、卵巣局所での顆粒膜細胞のアロマターゼ発現抑制を解除するインスリン抵抗性改善薬の有効性が明らかにされている。そこで、マイタケのインスリン抵抗性改善作用物質である分子量約2万のグリコプロテイン、グリスリンにPCOSの排卵障害改善作用があるか、更にクロミッドの作用を増強するか検討した。

【方法】

2007年日産婦・生殖/内分泌委員会の基準でPCOSと診断した80例を無作為にグリスリンとクロミッドの2群に割付けた。12週間または月経3周期を投与期間として、両群の排卵率を検討した。更に、各群での無効例に12週併用療法を行い、排卵率を検討した。

【結果】

1) 有効解析例はグリスリン26例、クロミッド31例であった。2) グリスリンの症例別排卵率は76.9%(20/26)、クロミッドでは93.5%(29/31)で、両群間に有意差はなかった。グリスリンの周期別排卵率は41.7%(30/72)、クロミッドでは69.9%(58/83)で、クロミッド群が有意に高かった ($P<0.001$)。3) グリスリン無効7例とクロミッド無効8例における併用療法の排卵率はそれぞれ、100%(7/7)、75%(6/8)であった。4) 妊娠は3例あり、グリスリン単独例で2例、クロミッド無効後併用例で1例であった。5) グリスリン投与による重篤な有害事象は認められなかった。

【結論】

グリスリンはPCOSの排卵促進に有効であり、臨床的有用性は作用機序が同様なメトホルミンとほぼ同等と考えられた。グリスリンとクロミッドの併用は単剤無効例の排卵率を著明に改善すると考えられる。